

# 生ごみたい肥の作り方

用意するもの：米ぬか、古い土、バケツ、木綿の布、生ごみ

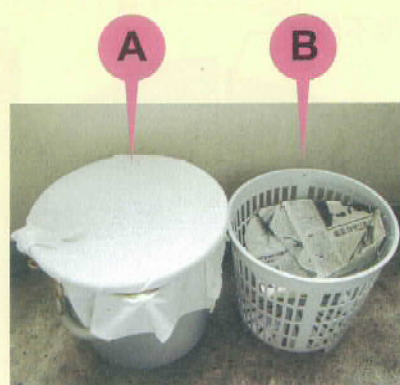
## ☆生ごみの準備

- ①野菜くずや果物の皮、茶がら、コーヒーかすなどの生ごみを使います。  
※魚や肉、骨などは腐りやすく、分解もしにくいいためあまり向いていません
- ②生ごみは水にぬらさないよう、新聞紙などを利用して集め、できるだけ細かく切りましょう。  
※水分が多すぎる場合は、細かく切った後半日ほど乾かします。

## ☆バケツに投入

- ①用意したバケツに生ごみを入れます。
- ②米ぬかと古い土(乾燥している土)をバケツに入れ、木綿の布をかぶせます。  
(※量は生ごみの約10~20%程度が目安です)
- ③生ごみが出るたびに①と②を繰り返し、そのつどしっかりとかき混ぜます。

バケツを触ってみて、暖かければ発酵が進んでいる証拠です。また混ぜる際に土を握ってみて、だまができるか確認します。もし乾燥していれば水分を、湿りすぎていると新聞紙を表面に置くなどして調整します。



「A」が生ごみたい肥を作っているバケツ  
「B」が生ごみを乾燥させる容器

## ☆完成

バケツがいっぱいになったら、それ以上は生ごみを入れずに、毎日混ぜるだけにしましょう。夏は2~3か月、冬だと3~4か月で完熟したたい肥になります。完成したたい肥を使う場合は、十分に土と混ぜ1か月ほど馴染ませてから有機石灰をまき、植える根にたい肥が直接ふれないよう注意しましょう。

## ☆皆さんもエコライフを始めませんか?☆

今回お伝えした生ごみたい肥の作り方は、一つのやり方であり、ほかにも様々な方法があります。もちろん失敗することもあります。自分で生ごみたい肥を作り、野菜や植物を育てるのは楽しいものです。食べごろを見計らって、旬の野菜を採り立てで食べると、味の濃さ・みずみずしい味に驚くことでしょう。

